

4月例会レポート



うららかな日差しが降り注ぐ東京海洋大学キャンパス白鷹館にて4月14日14時より4月例会が開かれました。はや花過ぎの構内でしたが、ぐるっと一巡りすると八重桜に会えました。

【高田正子主宰のご挨拶より】

中日新聞に続き岩手日報が「青麗」の記事を出して下さったとのこと、いずれ正式に掲載許可をいただきホームページにアップしてゆきたい旨報告されました。

また、折々お会いする方やお便りに青麗の感想を頂戴している。「明るくまっすぐで爽やか」などのおほめの言葉や励ましの言葉があったこと、他の結社が取り上げて下さった感想についてもおいおいホームページや本誌に掲載してゆきたいとのことでした。

次に、金利恵さんが上梓された句集が青麗文庫第1号として誕生したことに触れられ、今後も2.3.4.とナンバリングして青麗文庫を順々に増やしてゆきたい、私家版や出版社に依頼する方法などご相談に乗りますとの心強いお話がありました。

ホームページに青麗文庫のコーナーが立ち上がっていますのでこちらもご覧ください。

お願いとして、本誌への投句などマイページに入りにくい方がいらっしゃったら句会后対面で解決を、また、知り合いが困っておられたらお手伝いを、と助言がありました。

【各自披講】

参加者は41名、出句数129句、後藤智子さんの司会で披講が始まりました。春の華やぎに満ちた教室にピーンと空気が張りつめます。

句会も回を重ねるごとに会員の皆さんのお名前とお顔、声がインプットされてゆきます。

【高得点句の合評】

高得点句は9点句を1句、5点句を2句合評しました。どのような句が選ばれどのように鑑賞されるのか、ここで自分の鑑賞の浅さに気付いたり共感したりとても良い勉強になります。主宰から作者のプロフィールなども紹介され、さらに理解が深まります。



【主宰選・選評】

今回は☆が 17 句、☆☆が 10 句、☆☆☆が 5 句選ばれました。主宰の丁寧な解釈と鑑賞に導かれじっくり味わい共有することができました。その後、全員の句の講評と添削がなされました。

助詞を吟味すること、焦点を絞って場面をどう切り取るか、絞り切れない時は連作のように何句か作ってみる、語順を入れ替えることによりイメージが微妙に変化すること、季語の選び方や取り合わせ、色合いをどう表現するか、手触りなどの感覚的な表現について、比喻表現、自分の気付きをどんな言葉で現すか、重複を避ける言葉選び、字余りについてなど次の句作へ繋がる推敲のポイントが惜しみなく示されました。印象的な示唆として、「月」と「櫻」などの季重りの句の解釈と句作の心構えについてストーンと腑に落ちるような説明がありました。

学ぶことの多い充実した句会でした。そして、また明日から句を詠んでいこうと勇気と希望が湧いてくるような明るい句会でした。

主宰の高田正子先生・スタッフのみなさま、ありがとうございました。

【係からの連絡】

- ・月例句会の受付開始時間は **13 時 30 分**です。青麗誌 5 月号 2 ページに青麗年間スケジュールを掲載しましたので、併せてご確認ください。
- ・青麗俳句会 HP のマイページからアクセスする青麗誌への投句は、必ず投句を完了させてください。保留のままにしていると未投句となります。
- ・青麗俳句会 HP「青麗ひろば」に高田主宰や仲間の活動を掲載しているので定期的に確認いただき、イベント等に積極的にご参加ください。

(文責：藤原尚子、写真提供：上田みの、レイアウト：佐柳恵美子)